

茨城大学学報

第282号

平成20年12月～平成21年1月



図書館前の梅の花

INDEX

- ◆学長年頭挨拶
- ◆茨城県と茨城大学との包括連携協定を締結
- ◆地域連携協定締結自治体との意見交換会を開催
- ◆水戸キャンパス周辺の地区一斉美化清掃
- ◆坂田東一文部科学審議官が茨城大学工学部を視察
- ◆「茨城大学合同企業説明会」を開催
- ◆茨城大学フロンティア応用原子科学研究センターを開所
- ◆図書館で十河雅典展を開催
- ◆茨城大学大学院農学研究科大学院GPワークショップ開催
- ◆農学部がルフナ大学農学部と学术交流協定を締結
- ◆大学憲章講演会を開催

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 学長年頭挨拶

平成21年1月5日

学長 池田幸雄

新年明けましておめでとうございます。

教職員の皆様にはお元気で平成21年を御迎えの事と思います。

さて、本年の5月31日は、茨城大学創立60周年記念日で御座います。人間で云えば「還暦」に当たり、節目の年に相当します。しかしながら、10年前に創立50周年を盛大に祝ったばかりで御座いますので、今年の創立60周年記念では、地味に祝うのが適切であると思います。



現時点では、2つの記念イベントの実施を考えております。第1の記念イベントは「茨城大学憲章」の制定です。この憲章の制定には、2つの目的があります。1つめの目的は、茨城大学の内外の皆様「茨城大学とは何なのか？」をご理解頂く事です。2つめの目的は、この憲章が茨城大学の行く末を照らす灯台となる事です。このイベントは、学長直属の組織として「茨城大学憲章検討WG」が既に設置され、活動を開始しております。このWGは、今後、茨城大学の全教職員や学生に検討を求め、本年の5月末までに完成させたいと考えております。この件につきまして、皆様の全面的なご協力をお願い致します。

2番目の記念イベントは「地域貢献シンポジウム」の開催で御座います。茨城大学は、今後、茨城県の全域に渡って、地域貢献を積極的に展開して参る所存で御座います。去年の秋の日経新聞によると「地域貢献度ランキング」で茨城大学は、全国で第11位にランクされました。私は、茨城大学が「地域貢献度ランキング1位」になる事を目指したいと考えております。この記念イベントの「地域貢献シンポジウム」をその出発点に位置づけたいと考えております。この「地域貢献シンポジウム」は未だ具体的には始まっておりませんが、この1月中には、WGを発足させたいと思っております。

創立60周年の記念イベントは以上の2つで御座いまして、今年の5月頃には終了する予定です。この60周年記念に加えて、今年が第1期中期目標・中期計画期間」の最終年度でもあります。この6月には、大学評価・学位授与機構の認証評価を受ける事になります。更に、この夏以前には「第2期中期目標・中期計画」を文部科学省に提出しなければなりません。さらに、今年の秋にかけて、第2期の運営費交付金の査定も行われると思います。この査定が茨城大学にとって、どれくらい厳しいものになるかどうかは定かではありませんが、一般的に「地方国立大学」はかなり厳しい状況になるものと覚悟しております。

以上のように今年の茨城大学は大変な年になると思いますが、この重要な年を無事に乗り切れば、茨城大学の前途は明るくなるでしょう。茨城大学の全教職員の皆さんには、それぞれの課題を着実に全うし、茨城大学の一層の発展を目ざして頂きたいと思います。最後に皆様方の今年1年のご健勝を祈念致しまして、年頭の挨拶と致します。

◆ 茨城県と茨城大学との包括連携協定を締結

茨城大学では、11月26日(水)に茨城県庁において「茨城県と国立大学法人茨城大学との連携に関する協定」を締結しました。

この協定は12月に供用開始となる大強度陽子加速器施設「J-PARC」に設置された県ビームラインの利活用推進を契機として締結されたもので、県が独自に設置した2本のビームラインの運転・維持管理を本学が担当することになっています。

橋本茨城県知事からは、今後ビームラインが地域産業の振興に大きく貢献できるよう強い期待感が述べられ、併せて教育や環境、農業、地域振興等の広範囲における本学との連携分野の更なる進展に期待を寄せられました。また、池田茨城大学長からは大学の基幹的な柱として地域振興と社会貢献を掲げ、茨城県全域において県と協力しつつその責任を果たし、活性化に努力して参りたいとの挨拶がありました。

従来から茨城県と茨城大学は緊密な協力関係を積み重ねてきましたが、今回の包括協定締結により、さらに多方面にわたる連携事業の進展が期待されています。



協定書署名終了後に握手する橋本茨城県知事と池田茨城大学長（右）

◆ 地域連携協定締結自治体との意見交換会を開催

12月3日(水)本学と連携協定を締結している自治体（鹿嶋市・水戸市・阿見町・日立市・東海村・常陸大宮市及びオブザーバーとして大洗町）との意見交換会を開催しました。

本学では初めての試みとなる今回の意見交換会は、協定を締結している全自治体に呼びかけ実現したもので、担当者が一堂に会して各自治体からの連携事業等の報告や今後の連携事業実施における課題やご意見を伺うことにより、本学と協定先との連携事業に対する課題の共有化を図る目的で開催されました。

本学の宇野事業担当理事の挨拶で開始され、天野地域連携推進本部長が座長となり忌憚のない意見交換がされました。参加自治体の担当者からは、互いの連携事業の内容や新しい情報の収集も図られ、今後の連携事業を進める上で参考になったとの意見もあり、和やかな雰囲気の中にも実のある意見交換会となりました。

なお、今後も継続して開催することにより、連携先との意志の疎通を図りさらに緊密な連携関係の構築を目指したいと考えています。



連携事業に関する意見交換会を実施

◆ 水戸キャンパス周辺の地区一斉美化清掃

水戸キャンパス地区で12月7日（日）の地元周辺の自治会・町内会主催の「地区一斉美化清掃」の実施に、早朝から教職員並びに学生約40名がボランティアとして参加し、水戸キャンパス周辺の一斉清掃活動を実施しました。

年末恒例になっている「地区一斉美化清掃」の活動で、水戸キャンパス周辺の不燃物や空き缶等の分別収集、落葉及び除草の清掃作業を行い、地域に開かれた大学として地元住民との連帯感を醸成することにもつながりました。

また、清掃終了後には田切学長特別補佐から、ボランティア清掃参加者へのねぎらいの言葉と今後も本学の教職員・学生として地元住民との連携を大切に、積極的に地域の行事に参加してほしいとの挨拶がありました。



早朝、地域の人と清掃に励む学生たち



地域住民、学生らと共に清掃活動に取り組む教職員

◆ 坂田東一文部科学審議官が茨城大学工学部を視察

文部科学省の坂田東一文部科学審議官が、このほど茨城大学工学部を訪れ、池田学長、神永工学部長と懇談するとともに、同学部の研究室等を視察しました。

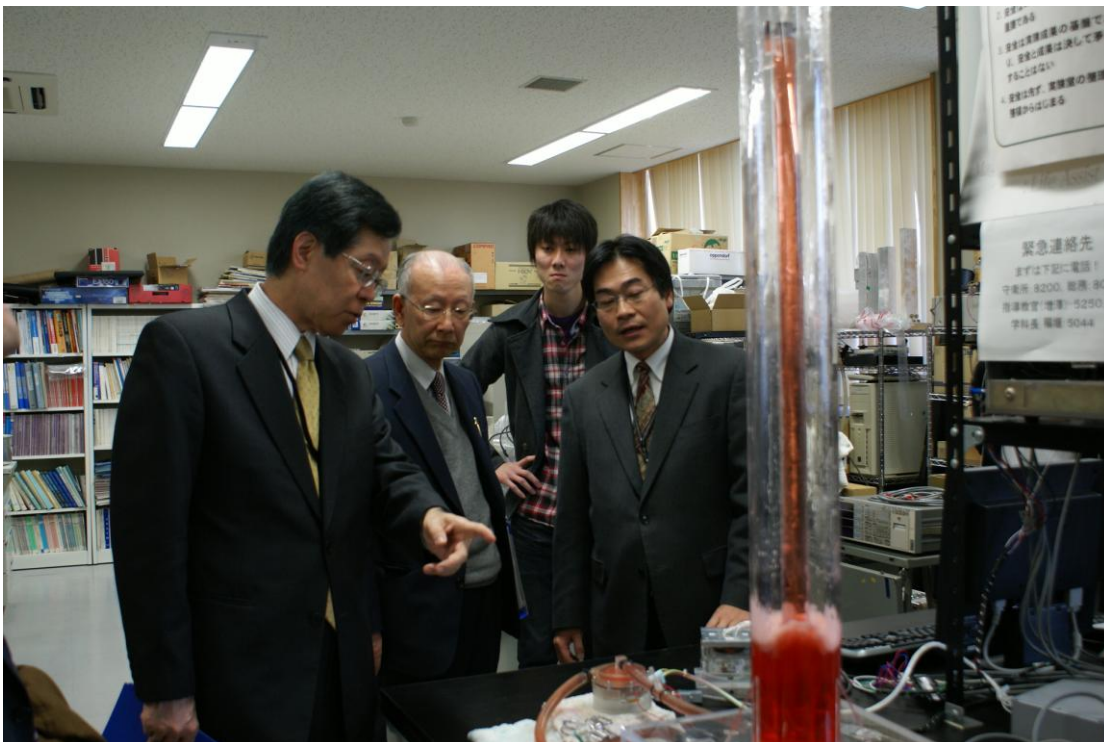
坂田文部科学審議官は、フロンティア応用原子科学研究センター長も兼ねる松田副学長より、同センターの概要とJ-PARCにおける利活用について説明を受けました。

研究室訪問では、各種磁気浮上技術の研究開発を行っている増澤研究室を訪問し、長寿命的な磁気浮上型人工心臓などの説明を受けました。坂田文部科学審議官は「信頼性のある電子回路を作るのは大変ですね。いいものを作っていただきたい。」と感想を述べていました。

続いて、ICAS（地球変動適応科学研究機関）のプロジェクトについて、三村機関長から、ICAS関連教員から気候変動・海面上昇による沿岸域の複合災害への影響と適応策に関する研究報告をそれぞれ受けました。地震時における液状化現象に関する実験を見ながら、大規模地震との因果関係などについて、熱心に質問を寄せていました。

最後に、茨城県から委託された中性子ビーム実験装置「茨城県材料構造解析装置（iMATERIA）」「茨城県生命物質構造解析装置（iBIX）」での実験概要について説明を受け、実体顕微鏡でタンパク質が結晶になった状態を観察しました。

視察を終えた坂田文部科学審議官は「各先生方が張り切って研究されていた姿がいいですね。大学が産業界に与える影響が期待されているので、ぜひ頑張って地域に貢献し、地域に存在感のある大学を目指してください。」と話し、大学を後にしました。



磁気浮上型人工心臓について説明を受ける坂田文部科学審議官



地震を再現できる振動台実験装置を使った液状化現象の説明を受ける坂田文部科学審議官



実体顕微鏡でタンパク質の結晶を観察

◆ 「茨城大学合同企業説明会」を開催

12月18日（木）、19日（金）の2日間、茨城県武道館において「茨城大学合同企業説明会」を開催しました。出展企業116社、本学学生延べ750名が参加し会場は熱気で溢れ、学生の就職への関心の高さがうかがえました。

学生就職支援センターが主催したこの説明会は、学生が個性や能力に応じ幅広い視野に立って進路を選択するための情報収集の場として活用することを目的としています。

この日学生は、希望する各企業のブースを自由に訪問し、貴重な情報を得ることができました。中には、人事担当者だけではなく、本学の卒業生や内定者が参加した企業もあり、学生からは「先輩から直接アドバイスを聞くことができて良かった」「通常の説明会では聞くことのできない企業の情報を得ることができました。」と、満足した声が届きました。

また、ここ数年は好調と予測されていた採用も金融危機の煽りを受け、先行きの見えない不安なものとなっていますが、人事担当者と直接話しをすることによって、不安材料を払拭するよい機会ともなりました。



参加企業のブースを訪問し、熱心に情報収集をする学生たち

◆ 茨城大学フロンティア応用原子科学研究センターを開所

平成 20 年 12 月 19 日に先端科学企業及び研究機関が集積する地域の特徴を生かし、応用原子科学に係わる世界的研究教育拠点を目指して「フロンティア応用原子科学研究センター」を、大強度陽子加速器施設（J-PARC）に隣接する茨城県東海村白方に設置し、同センターの看板除幕式および開所式を行いました。

関係教職員が見守るなか、池田学長、松田センター長、菊池前学長及び山形前副学長により除幕式がとり行われました。続く開所式では、池田学長、松田センター長から挨拶と同センターの研究概要・組織の説明があり、引き続き研究部門の活動と今後の取組みの紹介がありました。

同センターは、茨城県が所有する「いばらき量子ビーム研究センター」施設内の一角約 1,100 m²を借り受け、県 BL 開発研究部門、研究部門及び産学官共同研究推進部門の 3 部門から構成されています。県 BL 開発研究部門は茨城県が J-PARC 内に建設した 2 台の県ビームライン実験装置の運転・維持・管理及び高度化に係る受託業務と産業利用研究を行うと共に、中性子利用・解析技術の発展を図っていくこととしています。研究部門では物質科学、生命科学（県 BL 利用を含む幅広い研究領域）ならびに応用原子科学等の研究を推進、産学官共同研究推進部門は産学官連携による新しいイノベーション創生システム構築を目指すと共に、量子ビーム技術者の育成や中性子の産業利用の活用を図っていくこととしています。同センターには県 BL 関係部門長をはじめ約 20 名の教職員が常駐し、J-PARC を利用した幅広い研究成果が期待されています。



センターの除幕式を行う左から松田センター長、池田学長、菊池前学長、山形前副学長

◆ 図書館で十河雅典展を開催

図書館では、平成21年1月13日から27日まで十河雅典先生(教育学部美術教育)の絵画展を開催しました。先生の退任を記念し、図書館のカウンター前の展示スペースに「惑星通信鳥男」(182cm×226cm)をはじめ、自選の絵画3点を展示しました。

学生や学外の利用者から「図書館での展示なので、多く利用者の目に止まる」「こんな素敵な絵が大学の図書館で展示されるなんてすばらしい」「色づかいがすばらしい。すごい迫力だ。元気をもらった」「チラシで見たが、実際に本物の絵画をみてとても感動した」などの感想がよせられました。

図書館ではこれまでも様々な企画展を開催していますが、今後も茨城大学の教育・研究成果を地域へ公開するため、随時開催していく予定です。



写真は、左より小野寺淳図書館副館長、十河雅典教授

◆ 茨城大学大学院農学研究科大学院 GP ワークショップ開催

2009年 大学院 GP ワークショップ「環境科学からサステナビリティ学へーアジアの農学の役割を考えるー」が平成21年1月12日～13日に、茨城大学大学院農学研究科で開催されました。参加者は、海外からインドネシア3大学の学生12名と教員8名、バングラデシュ、中国、スリランカの教員。国内では、千葉大学及び筑波大学の教員、学生、茨城大学からは、池田幸雄学長、松田智明副学長、中島紀一農学研究科長、農学研究科教員、学生、併せて約100名にのぼりました。

本ワークショップは、平成19年度に文部科学省大学院教育支援プログラムに採択された「地域サステナビリティの実践農学教育」の一環として開催されたもので、①アジアの環境変化に対する理解を最新化する、②現在の食料とエネルギー問題における農業の役割を考える、③農業技術革新が進む中で、持続的農業のあり方を考え直す、の3題目について講演やディスカッション、ポスター発表を行いました。

教員の交流に加え、ワークショップでは学生の活躍がもっとも目を引きました。国内外の学生33名が英語で自分の研究のポイントを説明する発表セッションでは、各人の努力が凝縮されたもので大変な盛り上がりを見せ充実感にあふれていました。討論でも言葉の違いを超え熱心に議論する学生たちの姿があり、アジアのサステナビリティへの期待が感じられました。



学生たちの熱意によりワークショップも盛り上がりを見せた

◆ 農学部がルフナ大学農学部と学術交流協定を締結

茨城大学農学部とルフナ大学農学部は、1月13日、茨城大学農学部で学部間学術交流協定を締結しました。

ルフナ大学農学部とは、既に、2006年から研究交流を実施していますが、今回の締結は、両学部が相互に協力し、学術交流を奨励・推進すると共に、両大学の発展に寄与することを目的としたものです。

締結式には、茨城大学農学部からは中島農学部長らが、ルフナ大学農学部からは Thakshala Seresinhe（タクシャラ・セレスンエ）農学部長らが出席し、学術交流協定書の調印並びに両学部間の学生交流に関する覚書に調印しました。

協定調印式後、ルフナ大学農学部の Thakshala Seresinhe 農学部長が協定締結を記念し特別講演を行いました。同講演会には50余名の学生・教職員が出席し、盛況裏に終了しました。1月15日には、ルフナ大学農学部の訪問団（同上農学部長、K. D. N. Weerasinghe（ウィーラシング）前学部長、M. K. T. K. Amarasinghe（アマラシング）教授）が池田幸雄学長を表敬訪問し、両学部間の学術交流についての会談後、相互に記念品贈呈が行われました。今回の学術交流協定の締結を契機として、両学部間のさらなる活性化が期待されています。



調印式での Thakshala Seresinhe ルフナ大学農学部長（右）と中島紀一茨大農学部長（左）

◆ 大学憲章講演会を開催

茨城大学大学憲章検討ワーキンググループの主催による「大学憲章講演会」が平成21年1月28日に理学部インタビュースタジオにおいて開催され、延べ100名の教職員と学生が参加しました。(工学部、農学部へはVCSで接続)

今年創立60周年を迎えるにあたり、「茨城大学憲章」を制定することが茨城大学が今後の大きな歩みを進めるうえで最も重要なことのひとつであるとの認識のもとに、学長直属のワーキンググループを中心として準備が進められてきました。この「茨城大学憲章」の持つ意味を多くの教職員と学生に考えてもらい、いろいろな意見を制定すべき憲章に反省することを目的に、講演会が企画されました。

講演会は、池田幸雄学長の挨拶に続き、大学改革等担当副学長であり、大学憲章検討ワーキンググループの座長である小野義隆副学長が茨城大学憲章の検討経過と大学憲章第一次案の説明を行いました。引き続き、同ワーキンググループのメンバーである野田二次男理学部教授が「いま茨城大学で大学憲章を制定する意義」と題した講演を行いました。

最後に、すでに平成16年に「福島大学憲章」、平成17年に「新生福島大学宣言」を制定した福島大学の今野順夫学長による「福島大学憲章・新生福島大学宣言の意義と展開」と題した講演が行われました。今野福島大学長は、「憲章」や「宣言」の制定の過程での苦労談をユーモアたっぷりに話されました。講演会はなごやかなムードに包まれた中にありながらも、充実した内容のものとなりました。

今後、ワーキンググループでは教職員および学生へのアンケート結果をもとに、「茨城大学憲章」の制定に向けての作業を進めていく予定です。



大学憲章講演会
(茨城大学大学憲章検討ワーキンググループ主催)

日時：2009年1月28日(水) 13:00-15:00
場所：理学部インタビュースタジオ
(工学部・農学部へはVCSで接続)

プログラム

- 学長挨拶 (茨城大学学長・池田幸雄)
- 茨城大学憲章検討経過・大学憲章素案説明 (大学改革等担当副学長・小野義隆)
- いま茨城大学で大学憲章を制定する意義 (理学部教授・野田二次男)
- 福島大学憲章・新生福島大学宣言の意義と展開 (福島大学学長・今野順夫)

意見交換

多数の教職員・学生の皆さんの参加をお願いします
一緒に、大学憲章の持つ意味を考えましょう
皆さんの意見をお聞かせください



講演に先立ち挨拶する池田学長

講演会ポスター



ユーモアを交えて話す
今野福島大学長

VCSを含めて約100名の参加者を集めた講演会